

六月例会御案内

〔令和元年・通算第三八七回〕

時代を刷新する会

○御案内

六月十一日(火) 十一時半より入館可、正午～午後二時半 参議院議員会館一階一〇二会議室

講題 遺伝子診断・遺伝子治療への新しい展開!

講師 安藤寿康先生(慶應義塾大学教授・教育学博士、御専門は行動遺伝学)

◎いま、学問分野において、目覚ましい発展を遂げているのは、遺伝子研究の進展といわれています。私たちの体は細胞から成り立っており、その細胞には体の設計図ともいえるべきDNAがあります。私たちの塩基配列が遺伝情報として子孫に受け継がれる仕組みで、その遺伝配列が解読されたので、いままでは、そっくり人間を再生することもできるといわれております。それは人道的に許されないとしても、ノーベル賞学者・山中伸弥京大教授が作成に成功したiPS細胞の活用などによって、遺伝子診断で病気の鑑別や発症予測やその治療まで出来るようになりました。そこで、その専門家・安藤寿康先生から、分かりやすく御解説をいただきます。奮っての御参加を!(清原記)

□当日会費(昼食付き) 会員は三千元、非会員五千元。

時代を刷新する会 <http://www.jidaisassin.jp>

六月十一日(火)の月例会

電話 03-3272-4320

FAX 03-3507-8587

出席 欠席 (いずれかに〇印を)

御芳名

当日連絡先 080-8836-6203 重田

080-9292-2620 高津

貴方様のFAX
メール

(メール不可・通話のみ)

注▽ ハガキの返信は六月八日までに、御投函賜りたく。

○御報告

当団体では、今年に入り、習近平の中国、金正恩の北朝鮮、文在寅の韓国、それぞれにつき、わが国トップクラスの専門家をお招きして、その分析・解説をいただきました。そこで、五月は、プーチンのロシアの動向が気になりますので、去る五月十三日の月例会では、安倍総理の父上・安倍晋太郎先生(農林大臣・内閣官房長官・通産大臣、外務大臣等々要職を歴任)のもと、政策スタッフを務め、特に当時のソ連指導者ゴルバチョフやエリツィンとのつなぎ役をされていたことから、現在もロシア問題に詳しい磯村順二先生(現在はアメリカ・ハドソン研究所上席研究員)に、「プーチン大統領の動向分析、日本の対応は?」と題して、御講話いただきました。磯村先生は、まず、当時の晋太郎先生とゴルバチョフやエリツィンの交渉経過について回想された後、本題に入り、現在のプーチン大統領としては、中国はじめ韓国や東南アジアが発展してきているのに、ウラジオストクを中心とするロシア沿海州地域や北方四島を含め樺太・千島の開発が遅れているので、日本に経済協力してもらいたい。その上で北方四島交渉だと言っている。そこで、安倍総理は、「一九五六年(昭和三十一年)に日ソ間で締結された唯一の協定『日ソ共同宣言』の内容である『日ソ間で通商や漁業関係の協力交渉をし、平和条約締結後にソ連が歯舞群島と色丹島を日本国に引き渡す』とあるのに従い、プーチンとの間で話を進めようとした。ところが、プーチン大統領が今春、ロシア国内の北方領土返還反対の声に押されて、「北方領土を棚上げにして、平和条約を結ぼう」と言い出したことから、日本国内も反発し、北方領土返還を優先すべしとの声が高まって、停滞状況にあるが、自分は平和条約優先を考えるとされた。磯村先生は、その他、北朝鮮対策にもふれ、最後に、日本の外務省は、外交はすべて外務省を通さねば公式ではないとの感があるが、安倍総理とプーチンとの間で平和条約を先行させると決めたのだから従うべきだと外務省に注文をつけられた。聞いていて大層勉強になった。(清原記)

▽「時代を刷新する会」とは

「何事も人類・国民のためになることは、時代を先取りして、積極的に取り組もう」との趣旨で、昭和五十六年、岸信介元総理によって創設されたシンクタンクです。晩年の岸信介元総理がそうであったように、超党派・超派閥で、真に国を憂える有志によって構成されています。八つの部会と、五、六の委員会があり、これまでに百三十七本の要請書を時の政府に提出しています。第二代会長は、木村睦男元参議院議長、第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、第四代会長の塩川正二郎元財務大臣は、九十歳を機に辞任。第五代会長代行として、江口一雄元衆議院議員。その後、平成二十七年四月から、第六代会長代行として、岸信夫衆議院議員・元外務副大臣、前議員運営委員会理事、現在は衆議院安全保障委員長が引き続き就任しております。事務局電話(03)3272-4320 専務理事・清原淳平、総務・重田、高津